

< 教育・保育理念 >

受容・信頼・貢献感

いきよう
ちからいっぱい
じぶんらしく
まっすぐに

社会福祉法人 市島福祉会
認定こども園 いちじまこども園

〒669-4321
兵庫県丹波市市島町上垣138-1
(☎) 0795-85-2330
(fax) 0795-85-2335
<http://www.ichijima-kodomoen.com>

こども園HP

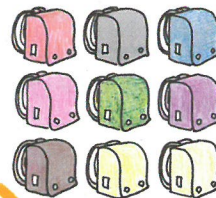


変わりゆく常識 ランドセル

ランドセルの色

ここ10年で真つ赤なランドセルの需要が下がり、近年では赤とピンクが混ざっているビビットピンクが一番人気だとか。またラベンダー色やグリーンといったパール系にも人気が出ています。さらにシヨコラといった茶色までも！

同じ黒色でも数種類あり、付属品も豊富。軽量重視のものから幅広いもの、機能的にも優れたものが増え、何をどう選べばいいのか迷う程です。



女の子は赤、男の子は黒と暗黙の了解があったランドセル。しかし、今のランドセル事情は昔に比べて大きくかけ離れています。



こども園の制服（Tシャツ）は6色から選べます。もちろん誰がどんな色を着てもいいのです♪もっと色を増やしてもいいかも…？

「何色でも選んでいいよ」という時代へ

ランドセルの色が幅広くなっている背景にはジェンダーの可視化をやめようといった取り組みが小学校などの教育現場で行われていることがあります。

色によって固定化された男女の像を子どもに植え付けるのではなく、一人一人の思いや在り方を尊重して欲しいというものです。

子ども達は大人が思う以上に敏感です。大人に作られた固定概念によって「自分のアイデンティティ」を当てはめてしまい、「自己を押し殺す」ことを防がなくてはなりません。ランドセルの多様化はその表れの一つなのかもしれません。

いつでも、どんな時でも、どんなあなたも素敵。こども園では0歳児から一人の人間として大切に接し、一人一人と向き合っていきたいと思っています。子ども達が自分で考え選択し、自分の事を自分で決めて行動していけるように…！



※参考記事 大きく変化した子供たちのランドセル事情 など

倉橋惣三の言葉

秋 晴



秋晴の好季が来た。子どもたちのために恵まれた戸外の季節だ。

一日半日の日光をも無駄にしない。ならない。

春の日はなごやかに、秋の日は硬い。

春の草はやわらかく、秋の草は粗い。

春にやさしく迎えた子どもたちに、

自然は、もうそろそろ此くらいの訓練を与えようとしているのか。

秋の気は澄み、空は高い。

子どもたちをして一ぱいに胸をはらせよ。子どもたちをして高々と上を仰がしめよ。

仰がしめよ。



倉橋惣三(1882-1955)

「日本のフレール」あるいは「日本の幼児教育の父」と呼ばれる幼児教育学者。倉橋が展開した子どもの心に徹底的に寄り添い、子どもの遊びや自発性を重視した幼児教育論は、まさしく現代に通じるもの。誘導保育論が特に有名である。